

式 5-1		地域重点施策推進事業事後評価調査 (令和3年度実施分)							地域振興局名		仙北地域振興局				
(地域施策推進事業)		事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
「生まれたこの街で働く選択(いきかた)」応援事業		総務企画部	高橋雅昭	地域企画課	企画・観光振興班		0187-63-5114	新型コロナウイルス感染拡大は地方への人の流れを生む契機となっており、この機を造ることなく、従来から取組を進めてきた若者の地元定着支援に加え、他地域に定住する当地域出身者へのアプローチを強め、それぞれのライフプランに応じた「ふるさと回帰」の流れを作り出す。	626,970	1 高校3年生向け求人説明会 管内企業への就職を希望する高校3年生を対象として、ハローワークに提出済の高卒求人票の内容を企業が生徒に対して直接説明する機会を提供した。 開催日：令和3年7月19日 会場：グランドパレス川端 生徒：152名、企業52社 2 高校2年生向け求人説明会 進路選択が本格化する高校2年生を対象として、大学卒業後の地元回帰を狙い、進学予定者が多い高校(角館高校)及び就職希望者が多い(六郷高校)において校内企業ガイダンスを開催した。 (1)開催日：令和3年10月20日 会場：角館高校企業ガイダンス 生徒：160名、企業11社 (2)開催日：令和3年10月27日 会場：六郷高校企業ガイダンス 生徒：41名、企業4社 3 中学生向け企業ガイダンス(中止) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止した。 4 大曲・仙北地域「就職＆移住フェア」(中止) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止した。 5 地域で働く人・企業のラジオ紹介「んだ。んだ。30分」 FMはなびとの協働事業として、この街で働く人や企業の取組などについて、コミュニティFMのラジオ番組を通じて紹介した。 放送日 奇数月の毎週日曜日15時～15時30分(最終週除く) 内 容 人や企業・団体にスポットを当てた活動紹介等 6 仙北地域若者雇用サミット 新型コロナウイルス感染拡大の影響によりイベント開催が困難となったことから、サミット形式での開催は中止し、管内商工団体への高校生の県内就職等促進要請と障がい者雇用拡大等要請の場において、意見交換を行った。 実施日：令和3年5月26日、28日、31日、令和4年2月18日、3月1日、2日 会場：大曲商工会議所、大仙市商工会、仙北市商工会、美郷町商工会 参加者：ハローワーク所長、大仙市、仙北市、美郷町 7 企業リーダーによる意見交換会の開催 企業が成長や人材確保のために取り組んでいることを伺い、事例について意見交換を行った。 開催日：令和4年2月24日 会場：大曲商工会議所 参加者：商工団体推薦4社	県	高校生、一般求職者、企業、経済団体、学校長、一般人等	令和3年4月1日 1 参加企業からは「役に立った」との意見が約73%あった。 2-(1) ・参加生徒からは「学ぶことがあった」との意見が約99%に達した。 ・参加企業からは「役に立った」との意見が約91%あった。 2-(2) ・参加生徒からは「自分の将来に役立つ情報があった」との意見が約88%あった。 ・参加企業4社の内、3社から「役に立った」との意見があった。 5 各月により番組を企画し、市民に身近な地元コミュニティFMを活用した県事業等を紹介した。 6 企業経営者からは新規高卒者の採用について「高校生向けの職場見学と同時に保護者に自社を知ってもらうための取組が重要」、「若い人たちに残ってもらうためには縁故採用ではなく、しっかりとした選考が重要」、「学校は働くことについて教える時間を設けてほしい」、「今の若者は褒められて伸びるタイプで、最初は目に見なければいけない」、「秋田の暮らしやすさのPRが必要」などの意見があった。また、障がい者雇用について「秋田県南障害者就業・生活支援センターの指導員による指導・対応が非常に効果的である」、「補助制度の周知が非常に大切である」、「20～30人規模以上の会社なら、何かしらの仕事を担ってもらうことができる」、「障害を持つ職員が配属された箇所において、そのカバーをどのようにしていくか」、「法定雇用率について業種ごとに差を設けてほしい」との意見があった。 令和4年5月13日 7 ・成長に向けた取組のうち、業務に関するものとして「ラインを一新した」、「HACCPに沿った衛生管理を実施」、「取引企業との緊密な情報交換」、「SNSを活用した新商品の発信」、「県外大手と提携」、「多角経営(福祉関係)の実践」、「同業他社との提携及びブランディング」、職員に関するものとして「働きやすい施設整備」、「資格取得への支援」、「職員間のコミュニケーション」に重点、「各部署に裁量を与え、考える力と柔軟な対応力の強化」、「異業種との研修会の実施」などの話があった。 ・人材獲得のための取組として「若い世代へのPR」、「健康経営優良法人の認定」、「求人情報を様々な媒体で発信」、「地域からの情報収集」、「給与向上メカニズムを職員で考えさせ、友人に話してもらう」などの話があった。	1 ・企業側・生徒側ともに満足度が高く、継続して実施すべきである。 ・一方で企業側から「全体で会社をアピールをする時間がほしい」、「2会場に分かれているため、他の会場の様子がわからない」、「スタート時間を早くしたほうがいい」、「説明時間を短くしてほしい」、「6月に実施してほしい」などの意見があり、今後の検討課題である。 2-(1) ・企業側・生徒側ともに満足度が高く、継続して実施すべきである。開催形式について、今回のようにブース訪問形式による開催が良いという意見が多かった。 ・一方で生徒側から「質問時間が短いのもう少し時間を伸ばしてほしい」との声があった。 ・また、企業側からは「説明時間をもう少し長くした方がいい」との意見があり、説明時間・質問時間ともに今後の検討課題となる。 2-(2) ・企業側・生徒側ともに満足度が高く、継続して実施すべきである。 ・今回は講義型、体験型のガイダンスとなったが、企業側からブース訪問形式による開催を求める声が目立った。 ・学校側から「県外の大手企業を呼んでほしい」などの振興局事業として対応が困難のものがあつたため、学校側への事業趣旨を十分に理解してもらうことが必要となる。 5 ・リモートワークに関連した取組を行う企業を紹介するとともに、夏・冬の観光地・観光イベントを紹介することにより、魅力ある仙北を発信することができた。 ・新型コロナウイルス感染拡大により地域が沈滞しがちな状況であるからこそ、仙北の魅力を発信し続け、地域で生きることの良さを広く周知することが必要である。 6 「早期求人提出」、「効果的な企業情報の発信」及び「職場環境の整備」に向けた取組については各企業とも前向きな意見が多かったが、「障がい者雇用の拡大」については経営状況の違い等により様々な意見があつた。しかしながらその重要性について参加者間の認識を深めることができた。 7 新型コロナウイルス感染拡大が続く一方、県内企業の給与水準は低迷しており、有能な人材を確保し、新たな付加価値を生み出す取組が欠かせないため、本年度は「成長に向けた取組」と「人材獲得のための取組」をテーマに実施した。テーマは毎年変えているが、本取組のような異業種を交えた意見交換は企業間において刺激となっており、今後も継続実施すべきである。	

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
関係人口づくり推進事業	総務企画部	高橋雅昭	地域企画課	企画・観光振興班	0187-63-5114	県外からの観光客に対し、帰ってからも仙北地域の県外応援団として関わることができる方法の普及啓発を行うことにより関係人口を増やし、地域づくりの推進に寄与する。	199,240	1 県外からの観光客への普及啓発 「大曲の花火」に大型バスを利用して来県する観光客に「大仙・仙北・美郷のファンづくりサイト」を紹介するPRグッズ(うちわ)を配布し、関係人口づくりの拡大に資することを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により「大曲の花火」が中止となったため、作成したうちわを県のイベント(空き家の無料相談会、防災キャンプ)参加者や来庁者へ配布し、県の施策をPRした。 作成数量 3,000個 2 「ばあちゃんは元気ですよ～！リモート里帰り」(中止) 当初、コロナ禍で帰省できない首都圏の若者と地元の高齢者をリモートで結び面会することで、故郷への思いを醸成し、将来的なリターンにつなげることを計画したが、参加者が限定的であり、他への拡がりが見えなかったことから、計画を見直した。 (変更後の計画) 「地元も良いかも。教えてセンパイ！」秋田会場と東京会場をリモートで結び、地元(秋田)で起業した若者が、地元で働くこと、暮らしやすさを秋田会場で発信するとともに、東京会場の大学生等の県出身の若者との間で、卒業後の働き方や生き方等について質疑を行い、地元に対する理解を深める機会とすることを予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施を中止した。	県	観光客、移住希望者、大学生等	令和3年4月1日 令和4年5月13日	1 「美の国あきた」を閲覧する可能性が少ないと思われる若い世代とともに年配者へ、「美の国あきた」内の関係サイトに容易にアクセス可能となるPRグッズを配布したことにより、若い世代や年配者の子息が進学や就職により県外へ転出した後においても、ふるさとへの思いを持ち続けるきっかけとなっていると考える。	1 PRについてはすでに一定の役割を果たしており、今後はサイト自体の魅力をアップすることを考慮すべきである。

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
移住者受入支援事業	総務企画部	高橋雅昭	地域企画課	企画・観光振興班	0187-63-5114	空き家バンク登録物件の掘り起こし等を行うことにより移住者の満足度向上と定着を図り、もって移住者と地元住民が一体となった地域活性化の実現に資する。	173,095	空き家の無料相談会 空き家の無料相談会を開催し、空き家バンクへの登録等空き家の活用を促進する。 ・第1回 開催日 令和3年6月5日 会場 大仙市大曲交流センター 件数 18件 ・第2回 開催日 令和3年7月3日 会場 仙北市角館交流センター 件数 12件 ・第3回 開催日 令和3年8月7日 会場 美郷町南ふれあい館 件数 5件 ・リモート 開催日 令和3年9月4日 会場 仙北地域振興局 件数 6件	県	空き家所有者	令和3年4月1日 令和4年5月13日	・売却(1件)、解体(5件)に結びついた。 ・相談者の満足度が92%と高く、ニーズに合った行政サービスの提供ができています。 ・相談対応者も当該事業の必要性を認識しており、継続していくことで団体間の連携や相談対応の質向上が期待できる。	・空き家バンク登録や売買に結びつく事例がまだ少なく、空き家の減少や団体の利益にそれほど結び付いていない。 ・コロナ禍により感染拡大地域居住者の相談に対応するたれリモート相談を初めて実施したが大きなトラブルもなかったことから、継続実施が必要。 ・相談内容の充実のため相談対応者への事前の情報提供や調整が必要。
防災意識啓発事業	総務企画部	高橋雅昭	地域企画課	企画・観光振興班	0187-63-5114	大規模自然災害が頻発する中、災害に対する積極的な備えと発災時の対応等について気軽に学べる機会を作り、地域全体の防災意識の向上を目指す。	49,656	防災キャンプの実施 多発する自然災害に対する地域の防災・減災意識の醸成のため、災害に対する積極的な備えと発災時対応等について楽しく学べる機会をつくり、地域全体の防災意識の向上に努めた。 開催日 令和3年10月9日 会場 美郷町大台野広場 参加者 大人9名、子ども9名	県	子育て世代の者、子ども	令和3年4月1日 令和4年5月13日	・アンケートによると、参加者全員が「開催した方がよい」との評価であった。 ・「アウトドアが好きで参加しましたが、大変なめになりました。子どもも、「防災」というとあまりイメージがわからないようすが、楽しみながら参加できました」、「子どもと一緒にいろいろな体験ができました。スタッフ皆様の御協力に感謝します。自宅でも防災の備蓄からやってみます。アウトドアもやってみたいです」、「日常生活から防災を意識した日々を過ごせるようになりました。帰宅後に実践してみます。本日はありがとうございました」等の声があった。	・参加申込期限内に定員に達したため令和3年8月31日で申込受付を終了したが、開催直前に11名(3家族)のキャンセルが発生し、参加者が大幅に減少する事となったため、今後は「キャンセル待ち」の受付等、参加希望者ができるだけ参加できる受付方法を検討したい。 ・イベントの運営については、屋外のため天候の影響があることをあらかじめ考慮したスケジュールを作成する必要がある。今回は、飯盒炊飯の実技があったが、風の影響により、想定以上に炊飯が進まず、「待ち」の時間が長くなったが、講師が用意した「蚊取り線香づくり」をその間に行う事で、参加者(特に子ども)が飽きることなく進行することができた。次回以降は、当方で時間調整のワークショップを準備する必要がある。 ・防災啓発については、講師の専門分野であり、参加者も熱心に聞いている。防災に関する事だけでは無く、アウトドア用品に関する質問もしている様子で、「災害時に役立つスキルを楽しみながら身につけ、考える防災」というテーマは達成できた。 ・アンケート結果から、「防災教室」をきっかけに、家庭での防災への備えに取り組みたいという方が多く、防災意識の啓発につながっていることがわかる。なお、アウトドア体験にも今後取り組みたいという方も多いことから、アウトドア体験を重ねることで、災害時に役立つスキルを更に身につけることが期待できる。 ・参加者からは、今回のような「防災教室」を今後も開催して欲しいという回答が多く、「アウトドア防災教室」(防災キャンプ)は、自然が豊富な仙北地域の特色を活かした取組と言えることから、今後も継続実施する。

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
仙北地域への誘客促進事業	総務企画部	高橋雅昭	地域企画課	企画・観光振興班	0187-63-5114	管内や周辺地域を含む一体的な情報発信・売り込みにより、誘客促進を図る。	525,546	1 隣県の隣接地域との協働による誘客・周遊促進 雫石・田沢湖・角館地域誘客促進事業実行委員会へ参画し、冬季の誘客促進事業「冬のささえ愛キャンペーン」として抽選により、岩手と秋田で利用できる商品券のプレゼントをした。 賞品 商品券5,000円(雫石2,000円、田沢湖・角館2,000円、共通1,000円) 応募期間 令和3年12月1日～令和4年4月10日 当選枚数 180枚 2 冬季における誘客・周遊促進 新型コロナウイルス感染症の影響で「県南冬まつりスタンプラリー」を中止としたが、代替として「秋田県南冬まつりクイズ大会～目指せ！冬まつり博士！～」を実施した。美の国あきたネットの特設ページで県南の冬まつりに関するクイズ7問出題し、応募者の中から抽選で県南地域の特産品をプレゼントをした。 (1)冬まつり博士賞 ・サキホコレ2合＋大仙市特産品詰め合わせ(大仙市観光物産協会)10,000円相当 ・サキホコレ2合＋はちみつ関係食品詰め合わせ(山のはちみつ屋)10,000円相当 ・サキホコレ2合＋美郷町特産品詰め合わせ(あきた美郷づくり)10,000円相当 (2)ラッキー賞 ・仙北地域特産品 ・横手市地域特産品 ・雄勝地域特産品 3 県外における観光PRへの参加(中止) 新型コロナウイルス感染症の影響で中止 4 誘客増や受入態勢整備の検討 観光客の滞在時間・日数を延長させることで、観光消費額を増加させ、地域の活性化につなげるための取組を検討するワークショップを実施。振興局が主催し、管内の3市町及び3観光団体が参加した。 5 新たなコンテンツの発掘・磨き上げなどを含む情報発信の強化 ・あきたファンドットとコム、アキタノNAVI(全県共通)に仙北管内のイベント情報等を掲載し、情報発信を行った。 ・ブログ、facebook、Twitter、Instagram(振興局独自)に管内の新たな観光スポットや地域の新しい取組を取材し、上記SNSを活用して情報発信を行った。	県、雫石・田沢湖・角館地域誘客促進事業実行委員会	観光客、一般県民、市町、観光団体	令和3年4月1日	1 応募総数2,416に達し、同時に実施したアンケートによると田沢湖・角館エリアを訪れる目的として、1位の「自然や景観」と2位の「温泉」が大多数を占めており、これらが目的であることが改めて明らかになった。 2 応募者が245名いたが、クイズ大会を通してはじめて知った冬まつりがあると回答した人が7割以上と知名度を高めることができ、来年度以降の誘客につながると考えている。 4 広域観光について、情報共有や意見交換を行うための貴重な場となっている。 5 振興局で運用するSNSのフォロワーは順調に増加している。	1 実行委員会の設立から10年が経過したが、事業効果の検証が十分になされていなかったため、一部負担団体において予算措置が困難となりつつある。 2 令和3年度は代替としてクイズ大会を行ったが、感染状況次第で令和4年度もスタンプラリーを実施できない可能性がある。 4 取組案の実現に向けて、各団体の幹部とのコンセンサスをとる必要性がある。 5 訴求力を向上させるため、タイムリーな情報発信や関係機関のSNSとの連携に努めていく必要がある。
								令和4年5月13日					

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
地域の活性化活動促進事業	総務企画部	高橋雅昭	地域企画課	企画・観光振興班	0187-63-5114	地域活性化活動を実施・支援することにより、多様な主体による様々な地域活性化活動の促進を図る。	525,546	1 秋田内陸線沿線での田んぼアートによる景観づくり 秋田内陸活性化本部、北秋田地域振興局、グリーンたざわ湖と連携して、内陸線沿線に田んぼアートを制作 日 時 令和3年6月3日(田植え)～10月1日(稲刈り) 場 所 仙北市上桧木内(内陸線上桧木内駅前) 絵 柄 「観光列車「EMI」と上桧木内の紙風船上げ」 2 100kmチャレンジマラソン運営支援(中止) 令和2年度から令和3年度に延期となっていた第30回記念大会が、新型コロナウイルス感染症の影響で令和4年度に再延期となった。 3 フリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわこ大会運営支援(中止) 新型コロナウイルス感染症の影響で中止。	県、農家	観光客、参加選手	令和3年4月1日	1 内陸線の見どころを創出し、仙北地域の活性化の一助となった。	1 地元住民の協力のもと実施することにより、地域の活性化は多様な主体の協働により達成させるものであるとの意識を醸成させ、地域への愛着を深めることにつながる事が期待できるとともに、活発な地域協働活動について目に見える形により一般観光客に対しアピールすることは、アートの美しさのみならず、地域の温かさ、連携に魅力を感じさせ、この地域を再度訪れてみたいと思わせる効果も期待されることから、今後とも継続すべきである。
働き盛り世代の健康づくり事業	福祉環境部	豊島優人	健康・予防課	健康・予防課	0187-63-3404	健康づくりの必要性を、管内事業所に広く周知し、健康づくり教室の継続を通して健康寿命延伸に向けた啓発を行う。	43,537	働き盛り世代の健康づくり教室の開催 対象者 大曲商工会議所職員 実施日 令和3年11月26日 参加者 12名 実施日 令和3年12月13日 参加者 9名 オンライン形式により講話、運動実技、アンケートを実施	県	大曲商工会議所	令和3年4月1日	・参加者から、「自身の生活を振り返り、改善に向けて取り組む意欲が湧いた」との声が聞かれた。 ・事業所からは「県認定健康経営優良法人申請を検討したい」との声も聞かれた。	2回目についてはコロナ禍を踏まえてオンライン開催とした。講話については対面形式と同様の効果はあったと思うが、運動実技については更に工夫が必要である。
アルコール関連問題対策事業	福祉環境部	豊島優人	企画福祉課	調整・障害者班	0187-63-3403	アルコール関連問題からの回復のためには早期に介入し、相談機関につなげていく必要がある。アルコール依存症患者やその家族、関係者への早期介入を目指し、管内の医療機関や行政、自助グループなど関係機関と連携し、更なる相談支援の充実を図る。	53,328	1 家族会出前ミーティング(出張自助グループ)の開催 実施日 令和3年6月24日 2 アルコール関連問題地域連携検討会 実施日 令和3年12月(書面開催)	県	家族、相談機関職員、病院、自助グループ他	令和3年4月1日	1 「他患者の話や回復した家族のことを聞き、自分の家族を振り返ることができた」との声があった。	1 地域の課題の一つとして、自助グループ等へのアクセスのしにくさがある。交通手段がない方は、地域で開催している自助グループに参加することも難しいため、出張型は相談のハードルを下げるという面で効果的である。
地域感染症対策強化事業	福祉環境部	豊島優人	健康・予防課	健康・予防班	0187-63-3404	管内の施設や事業所の感染症対策を把握し、実情に応じた対策を提示するとともに連絡会や研修会の開催などによる継続的な支援を行い、感染症対策の強化を図る。	54,751	1 管内の感染管理認定看護師の協力を得て施設内研修用DVDを作成し、DVD及び手洗いチェッカーを貸出した。 貸出先 14カ所 2 施設内勉強会への支援 支援先 3カ所	県	管内市長及び高齢者・障がい者施設、幼保施設	令和3年4月1日	・施設においてはコロナウイルスをはじめとした感染症への対策に不安を抱えている現状にあり、時機を捉えた事業であった。 ・施設からは、「DVDを視聴して自分の施設の準備状況を確認できた。」との声が聞かれた。	・コロナ禍に適応した伝達媒体としてDVDを作成した点は、具体的な作業手順が目に見えることから、現場では好評であり、効果があった。 ・コロナ禍においては、研修会や会議のオンライン会議も実施されているが、電子媒体資料を活用することで、研修会等への未出席者にも幅広い普及・啓発が見込めるものである。

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
仙北を牽引する園芸 品目推進事業	農林部	大石勝	農業振 興普及 課	産地・普 及班	0187-63- 6111	仙北地域振興局管内で の、複合型農業構造への 転換を加速的に進めるた め、関係機関との協働に より次の取組を行う。 1 アスパラガス、種なし 大粒ぶどうの課題を抽出・ 分析し解決に導き、作付 け面積の拡大と生産性の 向上を図る。 2 消費が減退している花 きの需要喚起を図るた め、宿泊施設において仙 北産花きを展示する取組 を支援する。	617,313	1 アスパラガス、種なし大粒ぶどうの地 域課題解決 (1)実証ほの設置 ①アスパラガス半促成栽培(高畝栽培) 栽培管理技術の実証 実施期間 令和3年7月15日～令和4年 1月14日 露地栽培を参考とした前年施肥よりも 1/3減肥したところ、施肥効率が改善して 障害茎が減少し増収した。 ②種なし大粒ぶどう省力化技術の導入 実証 実施期間 令和3年5月20日～令和3年 10月20日 短期間に作業が集中する果房管理に ついて省力化技術としてジベレリン1回 処理技術を実証し、ぶどう「ピオーネ」に おいて作業時間の削減、果実品質の向 上につながった一方で、薬剤肥がコスト 増になるため導入検討の継続が必要。 (2)先進地調査研修 ①アスパラガス 新型コロナウイルス感染防止のため中 止。 ②ぶどう先進地視察研修 ・令和3年8月3日横手市優良園地2カ所 を視察(生産者26名、関係機関5名)、優 良園地の調査により目標とすべき果実 品質を共有し、生産意欲向上に繋がっ た。 ・全国ぶどう研究大会 新型コロナウイルス感染防止のため 中止。 (3)産地PRIによる販売促進(ぶどう) ・PR用ミニのほりを200部作成し、出荷市 場、管内直売所で産地認知度の向上を 図った。 2 宿泊施設における需要喚起に向けた 仙北産花きの展示(ウィズコロナ対策) (1)宿泊施設における花き展示 観光宿泊施設15施設に消費啓発用卓 上ポップ100枚を掲示。仙北産花きを装 飾展示し、コロナ禍で消費減退した花き の需要喚起を図った(令和3年7月1日、9 月2日、9月30日、10月21日、11月11日) ところ、地元産花きの品質の良さが再評 価され施設利用客に大変好評だった。	県	農業者	令和3年4月1日	1 アスパラガスでは技術実証により半促成栽培 (高畝栽培)の技術確立に向けて一歩前進し た。種なし大粒ぶどうの取組では、着実に生産 量が増加しており、販促資材等の効果も含め、 消費者の関心が高まっているため、実証ほや 先進地調査により、さらに高品質生産に向けた 生産者意欲が向上した。 2 装飾展示の取組により、地元産花きの品質の 高さが再認識され、需要喚起につながった。	1 アスパラガス、ぶどうにおいて産地拡大に向けた地域課題の解決に取り 組み、その成果を産地に提示し共有することができた。継続して取り組む ことにより更なる生産拡大や高品質化につながると期待される。 2 異業種連携により、需要喚起に向けた取組を実施できた。生産拡大に加 え、需要喚起に向けた出口対策支援の強化が必要である。
											令和4年5月13日		
次世代を担う農業者 支援事業	農林部	大石勝	農業振 興普及 課	担い手・ 経営班	0187-63- 6111	新規就農者を確保し、経 営の早期安定により地域 定着を図るため、新規就 農啓発に加え、若手農業 者の経営力の強化支援を 行う。 また、若手畜産農家(肉 用牛繁殖)を中心に畜舎 の増築等の取組が進んで いることから、投資額を抑 制した低コスト畜舎の建 設や事故率低減に向けた 取組を支援する。	325,011	1 農業高校生に対する啓蒙活動と若手 農業者の経営力向上研修の実施 (1)大曲農業高校の3年生を対象に就農 支援授業(食と農)(6月～12月:延べ8 回)、郷土料理伝承体験学習会(花み そ)を実施。 (2)若手農業者を対象に経営力向上研 修として、原価計算に関する研修、インター ネット販売に係る研修を実施。 2 新規就農畜産農家の生産基盤整備 及び生産性向上支援 (1)畜舎構造及び生産コスト比較のため の視察研修 新型コロナウイルス感染防止のため中 止 (2)子牛の事故率低下に向けた視察研修 及び現地検討 管内視察研修と低コストカーフハッチ作 製研修を実施。	県	仙北地 区農業 近代化 ゼミナ ール、大曲 農業高 校、農業者	令和3年4月1日	1 (1)就農支援授業により食の大切さ、農業の魅 力等を高校生に分かりやすく伝えるように授業 内容を工夫して行った。実践授業として行った 郷土料理体験学習会では、実習形式としたこ と、オリジナルレシピ(トマト味)を取り入れたこ とで生徒の関心が高かった。 (2)管内の若手農業者に販路開拓の手段として 「インターネット販売」という選択肢を持ってもら うため、インターネット販売に着手する際のノウ ハウの習得に関する内容を中心とした講演を 行ったところ、受講者に好評だった。 2 (2)市販品に比べて安い価格でカーフハッチを 作製できた。 現地検討会では、改善点も洗い出され、参加 した生産者からは関心も高かった。	1 (1)高校から継続開催の要望があり、今後とも県が積極的に関与して支援 していく必要がある。また、郷土料理の良さや、アレンジする楽しさ等を 体験したことで、加工・新商品開発の実践(就農)意欲の啓発につながると 期待される。 (2)インターネット販売に対する関心を高めるのに効果的な研修であった。 2 (2)適切に使用を続けられるよう指導を継続し、子牛の飼養管理の改善が 必要な農家へ普及させていく必要がある。
											令和4年5月13日		